

煉瓦造りの利水施設

～埼玉には煉瓦造りの利水施設がなぜ多い？～

埼玉県に煉瓦製造の会社ができ、入手しやすく
木造に比べて頑丈な煉瓦造りの施設ができたと考えられます。



千貫樋



「日本の近代土木遺産」に選定された主な埼玉県の煉瓦造りの利水施設



三軒家樋管

なぜ埼玉の利水施設は煉瓦造りが多い？

埼玉県深谷市に、渋沢栄一らが中心になって1887（明治20）年に日本煉瓦製造（株）が設立されました。上敷免一帯は良質な粘土が採集され、東京にほど近く、利根川の水運があり、1884（明治17）年には鉄道も開通し、利便性の面からも工場立地に最適と判断が下され、1889（明治22）年から本格的な工場操業が開始されました。

そうして、従来の手作りの小規模生産ではなく、機械による煉瓦の大量生産が可能となったことが、千貫樋や三軒家樋管などをはじめとした埼玉県内の水門樋管等の水利施設に煉瓦構造が多くつくられることとなった一因と考えられます。

さいたま市桜区にある千貫樋は、かつて荒川とつながっていた鴨川の旧流路跡を流れ、現在では千貫樋水郷公園として整備されています。

▶ 北美埴樋（きたみいりひ）

江戸時代の絵図にも埴樋が記されており、1899（明治32）年に木製から煉瓦造りに造り替えられ、北美埴樋と呼ばれるようになりました。通常時は水田の落ち水などを、当時は近くを流れていた新河岸川へ流し、川の水位が上がった時は水門を閉めて堤内への浸水を防ぎました。

北美埴樋は、当時の入間郡宗岡村が埼玉県技術指導と県税の補助により建設したものです。煉瓦造りで当初は木製のスルースゲート（板を人力で上下させて開閉）とその下にフラップゲート（水流で開閉）が取り付けられていましたが、現在はありません。

埼玉県内に現存する煉瓦造りの桁型樋門（水路の天井部分に切り石が並べられた樋門）の中では最古のものであり、外観も良好に保たれています。（住所：志木市中宗岡1丁目）



きたみいりひ
北美埴樋

▶ 笹原門樋

1901（明治34）年に旧荒川の右岸堤防に設けられた制水施設で、灌漑用水の取水や増水時の逆流を防ぐ水門の機能を果たしていました。

水が通り抜ける抗門はアーチ型で、巻き上げ式に変更される前は観音開きの扉で制御されていたと思われます。また、面壁部分の中央には竣工年月日の刻まれた石の銘版が嵌められ、煉瓦は翼壁を含めて全てイギリス積みとなっています。

2015（平成27）年に川越市指定有形文化財に登録されました。（住所：川越市大字古谷上地内）



ささ原門樋

コラム 昔なつかし、明治の香り漂うレンガ造りの樋管

新河岸放水路にかかる立堀橋を起点に、県道川越新座線と県道大宮上福岡所沢線の合流地点方向に約10m。立堀橋のたもとから伸びる細い水路をたどって行くと、レンガ作りの樋管が見つかります。明治時代に建造されたと伝えられ、一部破損しているものの建造当時の姿を保っています。「三軒家樋管」の文字がレンガのアーチ上に刻まれ、明治時代にタイムスリップしたかのような錯覚におちいります。樋管の規模は幅3.35m、高さ3m。あたりの肥沃な田畑を踏み荒らさぬよう注意しながら樋管をのぞくと、2本の水路が往時のままに流れているのに出会えます。

アクセス

せんがんび 千貫樋

交通：JR「浦和」下車、国際興業バス「浦13」「浦桜13」「浦桜13-3」乗車、「中島」下車

住所：さいたま市桜区大字五関地内

さんげんやひかん 三軒家樋管

交通：JR・東武鉄道・埼玉新都市交通「大宮」下車、西武バス「大34」「大35」乗車、「東大久保」下車、徒歩6分

住所：川越市大字茨井地内

